Q－２９

医療情報を交換する「オープンなネットワーク接続」としてSSL/TLSを用いることは可能か。

「電子処方せんの運用ガイドライン」では、ASPサービスを用いた仕組みとして、Webサービス利用時におけるSSL/TLS接続について詳細に記載されているが、その他のインターネットを介した医療情報システムへのSSL/TLS接続について遵守すべき事項はあるか？

A　昨今、SSL/TLSについてプロトコルやソフトウェアの脆弱性をついた攻撃の報告が相次いでおり、SSL/TLSを用いても、適切に利用しなければ安全性を確保できません。

従って「電子処方せんの運用ガイドライン」と同等の対応が必要です。

例えばIPsecによるVPN接続等によるセキュリティの担保を行わず、インターネット等のオープンなネットワークを介し、HTTPSを用いて医療情報システムに接続する場合は、SSL/TLSのプロトコルバージョンをTLS 1.2のみに限定した上で、クライアント証明書を利用したTLSクライアント認証を実施してください。

その際、TLSの設定はサーバ/クライアントともに、「SSL/TLS暗号設定ガイドライン」（作成：CRYPTREC、発行：独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター）に規定される最も安全性水準の高い「高セキュリティ型」に準じた適切な設定が必要です。

また、いわゆるSSL-VPNは偽サーバへの対策が不十分なものが多く、医療情報システムでは原則として使用すべきではありません。